

東アジア宗教研究フォーラム創立記念大会に参加

金子 昭

2月20日、韓国・国立済州大学（済州島）にて開催された東アジア宗教研究フォーラム創立記念国際学術大会に参加した。同大会は、昨年1月におやさと研究所も後援して行われた同フォーラム発足式及び研究会を受け、韓国側で準備を続けてきた結果開催された初の学術大会である。

今回の開催テーマは「東アジア宗教研究の現在と未来」。大会は日韓分科会と日中韓分科会に分かれて行われたが、私は日中韓分科会に所属し、午前の部で「東日本大震災における台湾・仏教慈済基金会の支援活動—2011～2015年の5年間の歩みとその評価」と題して発表した。

昼食の後、東アジア宗教研究フォーラム創立記念発足式及び記念講演が行われた。日本側からは櫻井義秀・北海道大学教授が「現代宗教研究の課題と展望：日本・東アジアから」、韓国側からは柳聖昊・韓神大学教授が「韓国宗教学界の東アジア宗教研究：現在と未来」と題して、それぞれ講演した。

午後の部では、私は引き続き日中韓分科会にて司会進行役を担当した。夜は済州市内でレセプションが行われた。講演を含めると、日本・韓国・台湾の研究者から合計21本の研究発表が行われた。

翌21日はエクスカージョンとして、済州島内の宗教施設等を日台韓の研究者で見学調査した。訪問先は、「三姓穴」（済州島神話聖地）、クホル本郷堂での巫俗祭儀（年に2度行われる済州島独自の村祭り、韓国の無形文化財に指定）、韓国曹溪宗本寺の観音寺、民俗自然史博物館である。

創立記念大会の参加者は日台韓の宗教研究者・教団関係者あわせて43名。2日間を通じて相互に交流を深め、意義深い記念大会となった。

**平成 28 年度
公開教学講座のお知らせ**

今年度の公開教学講座は、9月からの開講を予定しています。会場は、例年のとおり天理教道友社6階ホールになります。

詳細は、本誌次号以降で改めてご案内いたしますが、今年度も多数のみなさまのお来場をお待ちしています。

宗教研究会

書評会 永岡崇氏著『新宗教と総力戦』

2月27日、宗教研究会の一環として、天理教史を分析した永岡崇氏著『新宗教と総力戦—教祖以後を生きる—』（名古屋大学出版会、2015年）の書評会を行った。評者は大谷栄一氏（佛教大学）と岡田正彦氏（天理大学）にお願いし、著者の永岡氏にも来ていただいた。二人の報告内容は多岐に及び、その後の討論も活発であった。その中で、最も大きい問題は、①本書のテーマである二重構造論をどうとらえるかということと、②宗教を語る時の立場性の問題であろう。前者は議論のあらゆるところに顔をのぞかせる二項対立をどう読み解くのかという、永岡氏の「読み」をめぐる方法に直結する。同時にそれは、②の立場性に密接にかかわるし、それに付随する内面的理解という宗教研究の方法にもつながっている。永岡氏の著作は、天理教外の立場から発せられた天理教の信仰者への問いかけである。それに対して、信仰者として、あるいは研究者としてどのような姿勢を示すのかということから問われているように思われた。（記：幡鎌一弘）

「出前教学講座」申し込み受付

おやさと研究所では教区、教会などの単位で「出前教学講座」の依頼をお受けしています。詳細は、担当者佐藤孝則（tasato@sta.tenri-u.ac.jp）までお問い合わせ下さい。

**『グローバル天理』
合本のご案内**

2010年から2015年に出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは各1年分（12号分）を1冊にまとめ、簡易製本したものです（頒価は200円）。

合本はご注文を受けて製本しておりますので、研究所事務室にお越しの際は、**必ず事前に電話、FAX、もしくはEメールでご連絡ください。**なお、郵送による頒布はできかねますので、ご了解ください。

グローバル天理
第17巻 第4号（通巻196号）

2016（平成28）年4月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 深谷忠一
編集発行 天理大学 おやさと研究所
〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan